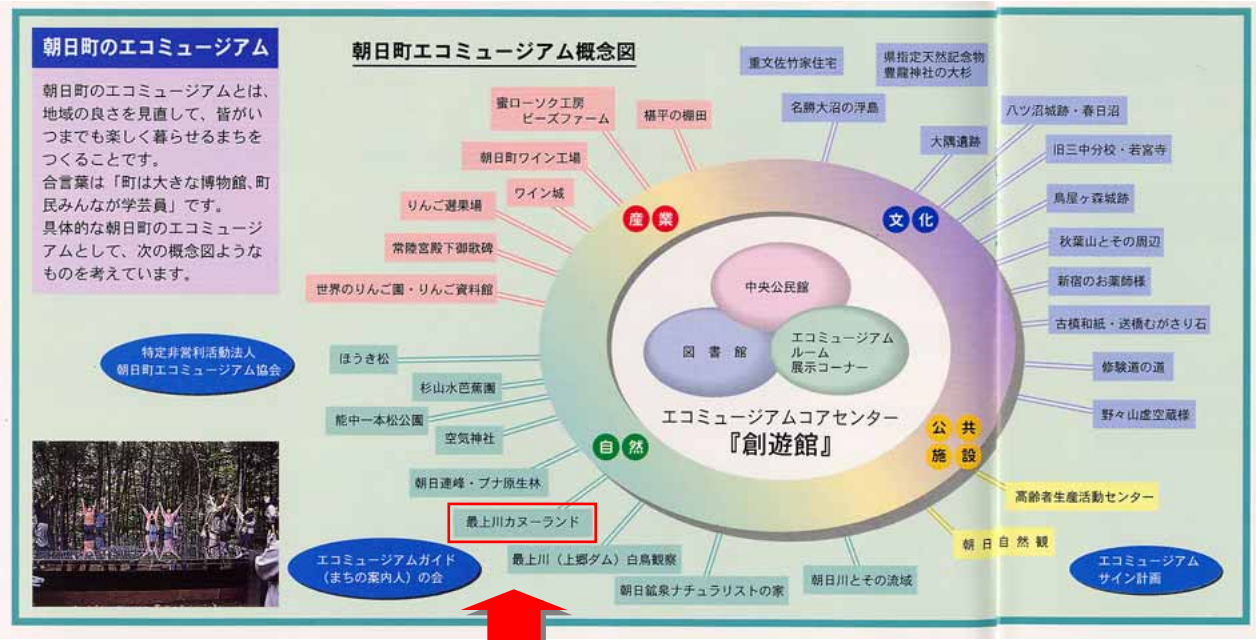
2-2. 水面利用に係わる国･自治体の取り組み

朝日町の取り組み

朝日町のエコミュージアム構想とカヌーによる活性化への期待

朝日町では、豊かな自然を生かし、地域の自然、文化遺産、伝統的生活など、町のすべてを屋外博物館にしようというエコミュージアム構想を観光手法として取り入れ、実践しています。

最上川カヌーは、町が 17 箇所選定した地域資源（サテライト）のひとつとして位置づけられており、体験型観光の中心で、利用者増加のための検討を進めています。



サテライトのひとつ
最上川カヌーランド

朝日町によるカヌー関連施設の整備状況（玉ノ井地区）

カヌー利用者のために駐車場、更衣室、トイレの整備を行っていますが、まだまだ不足しており、利用者からの強い要望があります。



玉ノ井地区の施設

■国土交通省の取り組み

山形河川国道事務所では、最上川水辺プラザの整備を鋭意進めています。朝日地区は平成 16 年度着手を予定しています。

山形河川国道事務所では、最上川上流部の水辺空間の整備事業として、「最上川水辺プラザ整備事業」を進めています。

“ 最上川を軸とした人と自然と文化の交流 ” をテーマに、舟運の復元を目指した親水空間と、隣接する施設との融和により、流域市町村の相互交流・連携が生まれる拠点づくりを行っています。現在、完成している水辺プラザは次の４つです。

- 谷地水辺プラザ　（平成５年度完成）
- 大江水辺プラザ　（平成 10 年完成）
- 寒河江水辺プラザ（平成 11 年完成）
- 中山水辺プラザ　（平成 12 年完成）

大江町、寒河江市、中山町では、最上川フェスタ（最上川活性地域活用化推進協議会主催による水辺プラザを活用したイベント）の際に、ゴムボートレースやホバークラフトによるミニ舟運等が行われています。

近隣自治体と連携することによって、最上川を資源として活用した地域活性化が期待できます。



水辺プラザ整備事業とは？

水辺プラザ整備事業とは、河川沿いの市町村が有する交流拠点と連携しながら、地域の交流拠点にふさわしい水辺空間として、堤防の緩傾斜化や親水護岸、また、水辺の広場などの整備を行います。

そして、水辺に「にぎわい」を創り出し、流域の市町村が相互に交流・連携を図る「まちおこしの拠点づくり」を支援します。

整備イメージ



谷地地区

地域の健康増進、リフレッシュの場
多目的スポーツレクリエーション拠点

●主要施設

船着き場（親水護岸）、散策路

●特徴

カヌー練習場









水辺プラザ参考事例【大江地区】

大江地区

最上川舟運によって育まれた歴史と文化の香りが漂う、豊かな水辺空間の創造

●主要施設
船着き場（親水護岸）、散策路

●主要拠点施設
テルメ柏陵、観光やな場、道の駅おおえ





平成10年度に完成した船着き場



平成11年度に完成した散策路



観光やな場

水辺プラザ参考事例【寒河江地区】

寒河江地区

陸上・水上交通の連結、総合レクリエーションの拠点的役割を担う水辺空間の創造

●主要施設
船着き場（親水護岸）、散策路
●主要拠点施設
チェリークア・パーク（ハイウェイ・オアシス）







左上／平成11年度に
完成した緩傾斜堤防

左／平成11年度に
完成した船着き場



寒河江サービス
エリア

水辺プラザ参考事例【中山地区】

中山地区

やすらぎと安全がキーワード
河川防災と親水が一体となった水辺空間の創造

●主要施設
船着き場（親水護岸）、河川防災ステーション
●主要拠点施設
最上川せせらぎ公園、グラウンドゴルフ場、ひまわり温泉ゆ･ら･ら


最上川せせらぎ公園




船着き場と河川防災ステーション


平成12年度に完成した船着き場


ひまわり温泉
ゆ･ら･ら